



7月11日、2年ぶりに「縄文グルメを食そう！ウニ」を開催し、市内をはじめ県内各地からウニ好きさん22名が集まりました。

世界で一番のウニ好きとして知られる日本人。そのウニ食のルーツは縄文時代にまで遡ります。ここ里浜貝塚でもウニのトゲやロ（アリストテレスのちょうちん）が出土しており、すでに食していたことがわかっています。

今年のウニは大きい！期待しながら石器を使いウニを剥いていきます。はじめて参加した子ども達は、まだ生きているウニにこわごわ石器を刺していました。

口をとり、中のワタを取ると…おなじみの黄色い身が見えました！特製の縄文土器にごはんを盛り、たっぷりウニをのせたら美味しいそうなウニ丼のできあがり。

「あの見た目のウニに挑戦してくれてありがとう！」と縄文人に感謝しつつ、いただきますー!!なんとも幸せそうな顔でウニを味わう姿が会場のあちらこちらで見られました。



ありがとう、縄文人。
はじめてウニを食べた
勇気に感謝!!!



▲資料を見ながら、興味深く学芸員の講座「縄文人とウニ」を聞くみなさん。



うわぁ!!
すごい身がつまってる!
早く食べたい!!

28回目の夏。本格的に縄文人に挑む。



7月17、18日、縄文村開館当初から続く長寿イベント「縄文教室」を開催。土器作り・野焼き・縄文料理と3回コースを通して縄文生活を学びます。28回目を迎える今年、通常のコースに加え、里浜貝塚出土の土器を再現する「本格コース」を新設。10名が本物の土器を目の前に、縄文人の土器作りに挑戦しました。



▲(左) (右) 里浜の縄文土器の再現に挑むみなさん。緻密な文様に悪戦苦闘。

今回再現に挑むのは主に、うずまき模様やくびれた形が特徴的な縄文時代中期の土器。本物を観察しながら制作に取り組みますが、見れば見るほど精巧な作りと縄文人の技術の高さに感嘆の声が上がりました。

通常の土器作りコースには県内各地から親子が参加。縄文土器らしいかざりを作ったり、原体（縄）で文様を上手につけたりと、初めてとは思えない力作がそろいました。

今回作った土器は1カ月間乾燥し、8月下旬に野焼きをします。



▲(上) (下) はじめての土器作り。真剣な面持ちで土器を仕上げます。

これからの縄文村イベント情報

10/9 (土) ナイトミュージアム×バーバー！夕方より開始 **予約不要**
夜の博物館を楽しむイベントを今年も開催します♪
詳しくは次号で！

10/30 (土) 縄文の丸木舟作り 参加費：500円（軽食つき）**要予約**
来年完成を目指している丸木舟。現在は内側（乗船部分）を制作中！
石斧の達人をお招きし、その技を伝授していただきます！

10/31 (日) 奥松島縄文村まつり 10:00～15:00 **予約不要**
年に一度の秋のおまつり！縄文体験、カキ剥き競争、丸木舟作り
…もりだくさん!!

11/27 (土) 縄文村講演会 13:00～16:00 **申込み等は次号で！**
今回のテーマは「縄文遺跡と世界遺産」。今回世界遺産となった「縄文遺跡群」の価値を知るとともに、縄文文化の魅力に迫ります。

現在開催中！

テーマ展『史跡 赤井官衙遺跡群』

～10月3日（日）まで開催。（※革帯の展示は9月19日～26日）



現在、資料館2階展示室でテーマ展『史跡 赤井官衙遺跡群 - 赤井官衙遺跡と矢本横穴 -』を開催中です。今年3月に国史跡に指定された両遺跡のこれまでの調査成果と出土遺物を紹介しています。

また、発掘資料としては唯一の革付きの状態出土した「革帯」を期間限定で展示します。